

令和2年3月19日

南房総市議会議長 飯田 彰 一 様

総務委員会委員長 峯 隆 司

総務委員会所管事務調査報告書

本委員会は、所管事務調査として「学校等再編について」調査を行った。このたび所管事務調査の活動を総括し、下記のとおり報告する。

記

1 はじめに

社会経済情勢の変化により少子化が進行し、国の将来の総人口は2053年には1億人を割り込むと推計されている。本市の平成30年度の出生数は119人と少子化が深刻な状況であり、児童生徒数の減少により学校の小規模化が進むと、集団教育の良さ、成長に合わせた豊かな創造性や協調性などを伸ばす環境が少なくなる。また、学校への教職員の配置数が減り、学校運営や児童生徒の指導に困難を生ずることなどが懸念され、本市のみならず全国的に大きな課題となっている。

こうした状況に対応していくため、本市では「南房総市立幼稚園及び小中学校再編計画」を策定し、学校等の再編が推進されている。

そこで本委員会では、所管事務調査のテーマを「学校等再編について」とし、学校等再編後の現状把握と今後の学校等再編について調査した。

2 本市の現状

児童生徒数の減少による学校の小規模化に対応するため、本市では平成20年3月、「南房総市立幼稚園及び小中学校再編計画」を策定し、望ましい学校規模や適正配置の実現を図り、保護者及び地域住民の理解を基に学校等の再編が推進されている。令和元年5月1日現在の本市の学校等再編状況は次項のとおり。

南房総市学校等再編状況

(R元.5.1現在)

地区	統合前名称	人数 (H18.5.1現在)	統合後名称	開園校年月日	人数 (R1.5.1現在)	学園名	備考
富山地区	平群保育所	13	富山子ども園	H29.4.1	66	富山学園	H24年4月 富山幼稚園に統合
	岩井幼稚園	29					
	平群幼稚園	19					
	岩井小学校	158	富山小中 一貫校	H28.4.1	333		H24年4月 富山小学校に統合
	平群小学校	65					
	富山中学校	140					
富浦地区	富浦保育所	24	富浦子ども園	H28.5.1	105	富浦学園	
	富浦幼稚園	79					
	富浦小学校	244	富浦小学校	H23.4.1	207		
	八束小学校	69					
	富浦中学校	156					
三芳地区	三芳保育所	20	三芳子ども園	H26.9.1	120	三芳学園	
	三芳幼稚園	63					
	三芳小学校	228	—	—	231		
	三芳中学校	143	—	—	104		
白浜地区	白浜幼稚園	36	白浜幼稚園	H23.4.1	13	白浜学園	
	長尾幼稚園	20					
	白浜小学校	147	白浜小学校	H23.4.1	117		
	長尾小学校	78					
	白浜中学校	165					
千倉地区	千倉保育所	47	千倉子ども園	H27.9.1	174	千倉学園	H26年4月 千倉幼稚園に統合
	七浦幼稚園	22					
	忽戸幼稚園	19					
	朝夷幼稚園	41					
	健田幼稚園	48					
	七浦小学校	89	千倉小学校	H26.4.1	366		
	忽戸小学校	107					
	朝夷小学校	139					
	健田小学校	227					
千倉中学校	319	—	—	193			
丸山・ 和田地区	丸山保育所	23	嶺南子ども園	H31.4.1	174	嶺南学園	H28年4月 南幼稚園に統合
	和田保育所	27					
	南幼稚園	44					
	丸幼稚園	23					
	和田幼稚園	22					
	南三原幼稚園	25					
	北三原幼稚園	15					
	南小学校	159	嶺南小学校	H31.4.1	297		H28年4月 南小学校に統合
	丸小学校	86					
	和田小学校	97					
	南三原小学校	100					
	北三原小学校	52					
	丸山中学校	132					
	和田中学校	131	—	丸山中学校と統合			

この再編計画の推進により、市立幼稚園及び小中学校数は、平成18年度に幼稚園15園、小学校16校、中学校7校あったものが、平成31年度には幼稚園6園、小学校6校、中学校6校に再編された。

なお、令和2年1月現在の各小中学校の学級数と児童生徒数は次表のとおり。

校名	区 分	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
富山小	通常学級数	1	1	1	1	1	2	7
	児 童 数	32	31	31	30	36	39	199
富浦小	通常学級数	2	1	1	1	1	1	7
	児 童 数	42	29	33	26	34	34	198
三芳小	通常学級数	1	2	2	1	1	2	9
	児 童 数	35	38	39	37	26	47	222
白浜小	通常学級数	1	1	1	1	1	1	6
	児 童 数	14	15	19	17	26	22	113
千倉小	通常学級数	2	2	2	2	2	2	12
	児 童 数	57	53	50	61	67	62	350
嶺南小	通常学級数	2	2	2	2	2	2	12
	児 童 数	52	40	49	46	40	48	275
富山中	通常学級数	2	2	2	-	-	-	6
	生 徒 数	43	38	42	-	-	-	123
富浦中	通常学級数	2	2	1	-	-	-	5
	生 徒 数	38	36	31	-	-	-	105
三芳中	通常学級数	1	1	1	-	-	-	3
	生 徒 数	28	35	40	-	-	-	103
白浜中	通常学級数	1	1	1	-	-	-	3
	生 徒 数	15	19	29	-	-	-	63
千倉中	通常学級数	2	2	2	-	-	-	6
	生 徒 数	55	69	60	-	-	-	184
嶺南中	通常学級数	2	2	2	-	-	-	6
	生 徒 数	67	59	61	-	-	-	187

3 調査概要

調査は、教育委員会からの資料提供と説明のほか、国、県、他市の資料を参考としながら、学校等再編に係る本市の現状及び今後の考え方を把握し、協議を行った。

(1) 調査事項に係る市の考え

ア 将来のビジョンについて

本市の幼稚園及び小中学校再編計画期間は、平成29年度で終了しているが、将来見込まれる児童生徒数から、今後の学校等の再編ビジョンを示すべきではないか。

このことについて市の考えは、児童生徒数だけで学校再編は決められるものではなく、通学時間や地域の思いなどの要素もあり、教育委員会で判断できる問題ではないので、学校再編の成果を見ながら今後判断していくことが妥当とのことであった。

イ 部活動について

数少ない限られた部活動の種類では、生徒の希望に沿わない場合もあるほか、団体競技の部活動では、同級生で1チームを組めないこともある。学校再編を進める前に部活動の再編を進めてはどうか。

このことについて市の考えは、学校にとって部活動が最優先のことではない。市内全域で部活動ごとにスクールバスを運行することは、現実的に非常に厳しいとのことであった。

ウ 通学について

通学距離2キロメートル以内の小学校低学年の児童もスクールバスを利用することはできないか。

このことについて市の考えは、学校再編検討委員会で協議を重ね、全市的な了解を得ていることなので原則事項とするとのことであった。

(2) 委員派遣について

先進市の取り組みとして、市町村合併後、第2次となる学校再編プランを策定した自治体の取り組みについて調査研究を行うため、平成30年3月、北秋田市に委員を派遣した。

北秋田市の学校教育においては、児童生徒数の減少により、学校の小規模・過小規模化が進み、複式学級の設置も増える可能性があるため、学校の一層の活性化や過小規模校の解消を図り、子どもたちにとって望ましい教育環境を整えられるよう、平成29年に「北秋田市小中学校適正規模・配置再編プラン」(15カ年計画)が策定され、将来を見通した学校再編の具体的ビジョンが示されていた。

計画では、①小中学校とも学級替えができる規模、②1学年1学級であっても20人程度の児童生徒がいる規模、③過小規模校の解消(複式学級の解消)ができることが適正規模とされていた。

4 まとめ

今後も児童生徒数の減少がさらに続くことが予想され、令和7年度の地区別小中学校の児童生徒数は、富山小156人、富山中96人、富浦小134人、富浦中108人、三芳小153人、三芳中115人、白浜小82人、白浜中48人、千倉小269人、千倉中167人、嶺南小245人、嶺南中152人と見込まれている。

児童生徒数が減少し、今以上に学校の小規模化が進んだ場合、更なる学校再編により学校規模の適正化を図るのか否か。或いは小規模校として存続させるのか否か等を検討する必要性が生じてくる。

学校再編は、児童生徒数や教育的な面だけでなく、通学時間、児童生徒に与える影響、地域との関係など様々な事情も考慮しなければならない大変繊細な課題でもあるので、児童生徒の保護者の意見を重視しながら、地域住民と市が教育上の情報や課題を共有し、検討を進めて行くことが必要不可欠である。

今回の調査を踏まえ、次世代を担う子どもたちに、よりよい学校教育環境が提供できるよう、本委員会として市に対し次の事項を提言する。

(1) 積極的な情報提供について

児童生徒の保護者や就学前の子どもの保護者等に対し、各学校区の学校教育環境の現状と課題、市の考える望ましい教育環境、将来的な児童生徒数の見込み、学校再編の進め方等について、具体的なデータと資料を基により積極的な情報提供を図られたい。

(2) アンケートや意見交換会の実施について

児童生徒の保護者や就学前の子どもの保護者等の意向を把握し、教育施策への確に反映できるよう学校教育環境や学校再編等に関するアンケートや意見交換会の実施を図られたい。

(3) 中長期ビジョンの策定について

学校再編後の成果検証と平行して、学校教育環境に関する情報の積極的な提供、アンケート調査、意見交換会等をとおして出された意見等を踏まえ、5年後、10年後の本市の学校教育環境のあるべき姿、ありたい姿を市民と市が共通認識できるように中長期ビジョンの早期策定を図られたい。

5 所管事務調査活動状況

年月日	活動内容
平成30年6月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・所管事務調査についての説明 ・所管事務調査の実施を決定
平成30年9月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・調査テーマを「学校等再編について」に決定 ・閉会中も継続して調査することを決定
平成30年9月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年第3回定例会本会議で「閉会中の継続調査」が議決された。
平成30年11月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会から調査テーマに関する現状と課題についての説明を受けた後、質問、意見交換を実施 ・今後の調査方法や調査スケジュールを決定
平成30年12月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・学校等再編に係る調査項目を協議 ・委員派遣により先進地視察を行うことを決定
平成31年3月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・北秋田市への委員派遣を決定 ・「委員派遣承認要求書」を議長へ提出
平成31年3月21日 平成31年3月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・北秋田市へ委員を派遣し、先進地の取り組みを学ぶ (議会だより第52号で視察報告を掲載)
平成31年4月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・委員派遣の成果について協議 ・今後の調査項目について協議
令和元年6月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・任期満了までの調査スケジュールを協議 ・今後の調査事項を「学校等再編後の通学状況と部活動状況について」に決定
令和元年12月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・学校再編後の通学及び部活動の状況について、教育委員会から、小学校別通学状況、中学校別通学状況、部活動の状況、中学校区別児童生徒数推移見込の説明を受けた後、質問、意見交換 ・調査報告書の作成について協議
令和2年3月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書案協議、報告書決定 ・議会で報告することを決定

6 所管事務調査での参考資料

【平成30年11月19日配付】

- ①南房総市学校等再編状況（平成30年5月1日現在）
- ②南房総市立小学校児童数推移見込み（平成30年5月1日現在）
- ③南房総市立中学校生徒数推移見込み（平成30年5月1日現在）
- ④南房総市立幼稚園及び小中学校再編計画（平成23年12月改定）
- ⑤南房総市幼稚園・保育所等再編計画（平成23年10月）

【平成30年12月5日配付】

- ①下仁田町「児童生徒数推計表」（下仁田町）
- ②北秋田市「適正規模再編プラン（案）」（北秋田市）
- ③岩手県「公立小・中学校の統廃合状況一覧」（岩手県）
- ④文部科学省「学校規模によるメリット・デメリット（例）」（文部科学省）
- ⑤「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」（文部科学省）
- ⑥学校規模の適正化及び少子化に対応した学校教育の充実策に関する実態調査について（文部科学省）
- ⑦少子化に対応した活力ある学校づくりに関する参考資料（文部科学省）

【令和元年8月9日配付】

- ①運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン（スポーツ庁）
- ②安全で充実した運動部活動のためのガイドライン（千葉県教育庁教育振興部）
- ③持続可能で充実した文化部活動のためのガイドライン（千葉県教育委員会）

【令和元年12月11日配付】

- ①南房総市小学校別通学状況（令和元年5月1日現在）
- ②南房総市中学校別通学状況（令和元年5月1日現在）
- ③部活動の状況（令和元年5月1日現在）
- ④南房総市中学校区別児童生徒数推移見込（令和元年度～令和13年度）（令和元年5月1日現在）